

# 入学期学生の時間的展望

－大学生の将来設計のアンケート結果より－

青 木 万 里

## I 問題と目的

現代を生きる若者の特徴として (1) 自らの将来を真剣に考えることを放棄し、目の前の楽しさだけを追い求める刹那主義的な傾向の若者が増加していること、(2) 特定の仲間集団の中では濃密な人間関係を持つが、集団の外の人に対しては無関心となり、社会や公共に対する意識・関心が低下していることが指摘され、大人社会に入る準備期間の課題の一つとして「人間としての在り方生き方を踏まえ、自らの生き方について考え、主体的な選択と進路を決定すること」が挙げられている (文部科学省, 2009)。青年期は職業選択を迫られ、現実的な視点から未来の決定とそれに対する準備を行わなければならない (大石・岡本, 2009) とされ、自分の人生をどのように送りたいかを現時点で考えながら、将来を設計していく時期と考えられる。人生の設計においては、自分がどういう人間で、どんな適性をもっているのかを正しく把握することが必要である。「私はこういう人間で、こういう特徴を持っている」など自分について自己定義をしていく過程で初めて将来の自分の姿が明確になってくる。この自己定義はエリクソン (1959) の言葉を借りれば「自我同一性の獲得」である。(以降、本稿では自己と自我を同義として論を進める)。自我同一性とは、「私はいつも同じ自分である」という自己の連続性・斉一性という特徴が、自分以外の他者とも共有できているという、そしてそれが社会からも認められているという感覚をもてることと説明されている (高橋, 2014)。自我同一性の獲得は都築 (1993) によれば、過去・現在・未来の時間的な流れの中での自己についての継続性や統合性の意識の上に初めて成り立つものであるため、その基礎には時間的展望の確立が必要とされる。

時間的展望について小野寺 (2009) は「将来に対する見通し」と説明し、時間的展望の確立は青年期の重要な発達課題の一つであり、その後の若者の人生を方向づける機能をもっていると述べている。都築 (1982) は時間的展望の研究論文をレビューし、時間的展望の長さという量的研究は蓄積されてきたが時間的展望の質的研究が不足していることを指摘し、個人が自分の人生にどのような目標や希望、意味づけをしているかといった質的側面を研究する必要性を論じている。加えて時間的展望の研究技法の再検討を通して信頼性と妥当性そのものの研究をすることや発達プロセスから時間的展望を研究することを課題に挙げている。その後、時間的展望研究では青年期を中心にアイデンティティ (石

井, 2017; 関・河村, 2019), 自己効力感 (山本・岩元・原口, 2012; 山岡・谷原・志和, 2020), キャリア形成・教育 (五十嵐, 2020; 佐瀬, 2021) などとの関連性が取り上げられてきた。また奥田 (2013) は大学生の時間的展望を測定した1990年代から2010年代にかけての研究論文をレビューし, 現代の大学生の特徴として目標指向性や希望が低くなっていることや大学生にとって過去・現在・未来という時間は連続した一貫性をもったものではなく多元化してきていると報告している。

筆者は大学で学生教育に携わっているが, 学生自身が自分の特徴を理解し, 適性を知ったうえで人生の設計や職業の選択をして欲しいと考えている。大学生は発達段階では青年期にあたり, 青年期は自分の生き方を模索する時期であり, 自分を見つめながら自己形成・自己確立していくことが発達上の課題となる。そのため今まで心理学関連の授業を通して, 学生が自分自身を見つめ, 自分らしさについて考え, 自己理解を深められるような機会を提供してきた。今回, 筆者は入学期の学生が履修する必修科目を担当した。自己形成の一助として, 学生たちにこれからの生活 (人生設計・将来設計) を書き出してもらうことで, 1) 学生たちの時間的展望における現状の自己意識を把握すること, 2) 入学期学生を対象にすることで, これからの大学生活への適応支援に役立つ知見を得ることとした。学生たちがどのような時間的展望を抱いて入学してきているかを知ることは, 現在の学生の特徴把握とこれからの学生教育に有用な示唆を得るうえで意義のあることと考えられる。

## Ⅱ 方法

- (1) 調査協力者・調査時期: 170名 (女性124名, 男性46名)。茨城キリスト教大学1年生の必修授業 (2020年度後期の対面授業) を受講した学生である。入学期学生を対象にしたため, 特に年齢の記述欄は設けなかった。
- (2) 倫理的配慮: 大学生の将来設計に関するアンケート調査を行い, 今年度入学した学生の特徴と傾向を把握したいという目的を伝えた。またアンケートへの回答は自由意志によるものであること, 成績には関係がないこと, 調査の結果は個人が特定されない形で公表されることを口頭で説明し, 不利益を被らないことを伝えた。そしてアンケート用紙が提出されたことをもって調査への同意を得たとみなした。
- (3) 手続き: 授業時間後にアンケート用紙を配布し, アンケートを実施した。筆者の授業を履修していた学生たちの所属学科は心理福祉学科 (女性45名, 男性16名), 看護学科 (女性59名, 男性3名), 経営学科 (女性20名, 男性27名) であった。アンケートは石橋 (2006) を参考にした。

これは女子大生200人に, 大学卒業後の人生をイメージしてもらい。「就職」, 「結婚」, 「出産・子育て」のそれぞれのライフステージで, どのような女性でありたいか, それを代表する色や匂いを尋ねたものである。結果は「ある女子大生の将来設計」という形で報告された。本稿ではこの結果を参考例として提示し, 各自, それぞれのライフステージでどのような人でありたいか, どのような人生を送りたいかを自由記述してもらった。以下が参

考にした将来設計である。

---

大学を卒業したら、まず就職。25歳か26歳頃には結婚して、仕事は続けたいけど、フルタイム希望かパート希望は半々。夫婦にとって一番大事なものは、何より「お互いの信頼感」、それから「お金」と「愛」。子どもは男女一人ずつか、一姫二太郎がいい。出産後は体調や家族の状況に合わせて仕事を考える。働くとしたらパートで、当分子育てに専念したい。

働いている私のイメージは、てきぱきと仕事ができる女。でも女性らしさも失わない。色でたとえるなら、黒とブルー。においはさっぱり柑橘系。

結婚して妻になった私は、良妻賢母。対等な夫婦関係を望むけど、夫を立てる気づかいも忘れない。色でたとえればピンク。甘い花のにおいがする妻になりたい。

そして出産・子育てする私は、子どもと友達のようなおしゃれママ。子どもをととても可愛がるけど、自分もしっかり持っていたい。色ならオレンジ。においは石鹸や太陽のにおい。料理のにおいもいいかな。

親の介護のことはまだ考えられない。90歳近くで死ぬまで、夫婦仲良く、元気で、海外旅行や趣味の世界を楽しみたい。

---

### Ⅲ 結果と考察

アンケートの回答を「参考例を読んだ感想」、「大学卒業後」、「働いている自己イメージ」、「結婚について」、「出産・子育てについて」、「出産後の働き方について」、「親の介護について」、「老後について」の項目別に整理をしていった。項目整理にあたっては、質的研究において効果的な一方法であると考えたためKJ法を参考にした。手順としては一人一人の学生の記載文章を丁寧に読み返し、項目ごとに内容を書き出し、その中の特徴的な単語を拾い、共通項を探してまとめた。本稿では、個人が特定されずかつ本意を失わないよう留意して内容を紹介した。なお男性データ数は少なかったため3学科を一つにまとめた。

アンケートの結果を表1に示す。心理福祉学科の女子学生は「W科女子」、看護学科の女子学生は「N科女子」、経営学科の女子学生は「M科女子」、心理福祉学科と看護学科と経営学科の男子学生は「(W・N・M)科男子」と表した。各項目についての記載有無をそれぞれ「有」「無」と分けて示した。学生の人数は数字(整数)、比率は[ ]内に% (小数点第二位で四捨五入)で示した。記載ありの概要については表1ではなく学科別の表に記載した。

次に3学科それぞれの女性データ、3学科をまとめた男性データを示し、特徴を述べていく。また学生たちが入学を希望する学科の特色を理解したうえで入学してくることを鑑み、入学生の現状と学科のアドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)に関連性がみられるかどうか検討を行った。

- (1) W科女子45名の回答は以下のように整理された。表1と同様に各項目について記載の有無を分けて、学生の人数を数字(整数)、比率を[ ]内に% (小数点第二位で四捨五入)で示した。記載ありについては概要を示した。

表 1. 3 学科のアンケート結果

	項目内容	W科女子 (45名)		N科女子 (59名)		M科女子 (20名)		(W・N・M) 科男子 (46名)	
		有	無	有	無	有	無	有	無
1	参考例を読んでの感想	8 [18%]	37 [82%]	21 [36%]	38 [64%]	4 [20%]	16 [80%]	4 [9%]	42 [91%]
2	大学卒業後	45 [100%]	0	56 [95%]	3 [5%]	19 [95%]	1 [5%]	45 [98%]	1 [2%]
3	働いている自己イメージ	37 [82%]	8 [18%]	31 [53%]	28 [47%]	13 [65%]	7 [35%]	27 [59%]	19 [41%]
4	結婚について	42 [93%]	3 [7%]	55 [93%]	4 [7%]	20 [100%]	0	42 [91%]	4 [9%]
5	出産・子育てについて	21 [47%]	24 [53%]	48 [81%]	11 [19%]	14 [70%]	6 [30%]	30 [65%]	16 [35%]
6	出産後の働き方について	9 [20%]	36 [80%]	28 [47%]	31 [53%]	12 [60%]	8 [40%]	—	—
7	親の介護について	7 [16%]	38 [84%]	9 [15%]	50 [85%]	7 [35%]	13 [65%]	5 [11%]	41 [89%]
8	老後について	20 [44%]	25 [56%]	37 [63%]	22 [37%]	14 [70%]	6 [30%]	19 [41%]	27 [59%]

表 2. W学科女子のアンケート結果

	項 目	概 要	無記入 回答数
1	参考例を読んでの感想	記載あり 8 [18%] (肯定的な意見 6、否定的な意見 2)	37 [82%]
2	大学卒業後	記載あり 45 [100%] (就職 42、進学 3)	0
3	働いている自己イメージ	記載あり 37 [82%] (仕事に積極的 9、なりたい人柄 8、 趣味も充実させたい 7、周囲との関係 4、安定した職に 就きたい 4 ほか)	8 [18%]
4	結婚について	結婚する 27 [60%] (具体的な結婚年齢を記載 21)、結婚 しない 15 [33%]	3 [7%]
5	出産・子育てについて	記載あり 21 [47%] (具体的な子どもの人数を記載 13 ほか)	24 [53%]
6	出産後の働き方について	記載あり 9 [20%] (育休後に仕事復帰 9)	36 [80%]
7	親の介護について	記載あり 7 [16%] (介護したい 5、施設に入所 1、ま だ考えられない 1)	38 [84%]
8	老後について	記載あり 20 [44%] (自分がどのように過ごしたいか 5、 どのような生活がよいか 3 ほか)	25 [56%]

参考例を読んでの感想は「働いているときは爽やか系で、結婚してからは甘い感じの女性というイメージに憧れた」、「参考例のようなライフデザインが理想」など肯定的な感想が多かったが、「キラキラした女性の理想像だと感じた。女性というイメージの枠の中の

考えだと思う」,「自分が参考例のようなプランを立てても挫折した時に立ち直れるか心配」と参考例に否定的な意見もあった。大学卒業後は全員が就職を目指しているが、職種については言及しておらず、「安定した職に就きたい」とする者が4名であった。また大学院に進学して公認心理師資格を取得したいと考えている者が3名であった。働いている自己イメージでは「仕事を頑張りたい」,「日々精進している」,「テキパキと仕事をこなす」,「周りから頼られるしっかりした人」,「自立した女性でありたい」と仕事への積極性をもちつつ,「周りの人への気遣いを忘れない」,「周りとうまい関係を築きたい」など周囲との関係性を大事にする様子が窺われた。また「仕事と趣味を充実させたい」と仕事とプライベートのオンオフの区別をはっきりさせたいという現実的な観点を持ち合わせていることが分かった。学生たちの卒業は4年後であるが、ほぼ全員が入学期に就職か進学を目指し、具体的な職種というよりはどのように仕事をしたいのか、8割方の学生たちは近未来についての時間的展望を持っていると考えられた。

W科女子の特徴として、結婚しない者が全体の3割に上った。理由は「結婚願望は特にない」,「自分のペースで生きていきたい」,「正直関心がない」などであった。結婚を希望しないうちの9名は老後について「貯めたお金で死ぬまで安定した生活がしたい」,「孤独死しないように近所づきあいを大事にする」,「趣味に生き、自分の介護が必要になる前に死ぬ」,「周りに迷惑を掛けずに生きたい」,「若いうちから運動などもして健康でいたい」など言及しており、老後を視野に入れた将来設計をしていることが示唆された。一方、結婚するとした27名のうち、具体的な結婚年齢を挙げた21名の平均年齢は25.95歳であった。出産については、希望する子どもの人数を挙げた13名のうち、最も多かったのが子どもは2人（回答8名）、さらに男女1人ずつと答えたものが4名であった。参考例に示された「一姫二太郎」といった順序性は見られなかった。子育てについては、「愛情をもって大事に育てたい」などが3名、「甘やかすだけでなく、駄目なことはしっかりと言う」など躰に言及した者が3名、「好きなことを自由に選べるように親の自分たちが働いてお金を不自由させない」など子どもに選択権を持たせたいとする意見が2名であった。ただし出産・子育てとなるとなかなかイメージしづらいようで、無記入が記載ありの人数を少し上回る結果となった。W科女子のみに見られた回答であるが、「養子」や「里子」の可能性も挙げて、個人のライフサイクルに血縁を超えた親子関係、独自の家族発達を想定している学生も見られた。

さらに出産後の働き方や親の介護になると無記入が半数を超えるようになり、積極的に親の介護を望むものは2名、「親の介護はいつになるか分からないが、視野に入れる」という回答も見られた。20代半ばで結婚し、子どもも授かりたいが、その先の未来展望については現実感を持って考えることは難しいようである。老後については4割が記載しており、「末永く幸せに暮らしたい」,「子どもが自立したら犬を飼いたい」,「残りの人生は穏やかに暮らしたい」,「これでよかったと思える人生にしたい」など幸せで穏やかでよかったとポジティブな未来展望を描く傾向にあると言える。W科女子たちは自分がどのような老後を過ごしたいかに焦点を当てた回答が目立ち、夫婦についての記載はあまり見られなかった。

複数回答から得られた共通項をもとに、参考例に倣ってW科女子の将来設計案を作成したところ、以下のような案が提示された。色とにおいては回答数の多いものを記載した。

大学を卒業したら、まず就職。26歳頃には結婚して、その後も仕事は続けたい。子どもは2人、男女一人ずつがいい。出産後は育児休暇を取ってから仕事に復帰、フルタイムかパートかは状況に合わせて考える。もし結婚をしない場合は、仕事でお金を貯めて将来不安にならないように生活をしたい。近所づきあいを大切に健康に留意し、周りにあまり迷惑を掛けないようにしたい

働いている私のイメージは、仕事を頑張って、てきぱきと処理ができる自立した女性。周りへの気遣いも忘れず、周りからも信頼されたい。安定した職業に就きたいし、仕事と趣味を両立できるようにしたい。色でたとえるならオレンジ。黒、青、水色も候補。においは石鹸のにおい。

結婚して妻になった私は、夫と良好な関係を築き、お互いの時間を大切に尊重したい。家事は夫と分担して、対等な夫婦関係を持ちたい。色でたとえれば黄色とピンク。それにオレンジ。花のにおいがする妻になりたい。

そして出産・子育てする私は、子どもを愛情をもって育てたい。駄目なことはしっかり叱ることができるママ。子どもにはやりたいことをさせてあげたい。色ならオレンジ。黄色や緑もいい。においは柑橘系と花のにおい。

親の介護はしたいと思っている。自分の老後は、幸せで穏やかな老後。これでよかったと思える人生にしたい。

(2) N科女子59名の回答は以下のように整理された。数字と比率の表記は(1)と同様である。

表3. N学科女子のアンケート結果

	項 目	概 要	無記入 回答数
1	参考例を読んだ感想	記載あり21 [36%] (肯定的な意見14, 否定的な意見4)	38 [64%]
2	大学卒業後	記載あり56 [95%] (就職52, 進学4)	3 [5%]
3	働いている自己イメージ	記載あり31 [53%] (仕事に積極的11, なりたい人柄7, 仕事と生活のメリハリをつけたい4ほか)	28 [47%]
4	結婚について	結婚する52 [88%] (具体的な結婚年齢を記載39), 結婚しない3 [5%]	4 [7%]
5	出産・子育てについて	記載あり48 [81%] (具体的な子どもの人数を記載35, どういう母親になりたいか10ほか)	11 [19%]
6	出産後の働き方について	記載あり28 [47%] (育休後に仕事復帰25, しばらく育児に専念したい3)	31 [53%]
7	親の介護について	記載あり9 [15%] (介護したい6, 兄弟で分担2, まだ考えられない1)	50 [85%]
8	老後について	記載あり37 [63%] (どのような夫婦でいたい13, 自分がどのように過ごしたい5ほか)	22 [37%]



参考例を読んだ感想は肯定的なものが多く、「私も同じようなライフデザインをイメージしているので共感した」、「自分のことをしっかり考えておりいいと思った」など参考例に賛同する者がいる一方、「理想が高すぎるから難しいと思う」、「少し欲が多いように感じた」など現実とのギャップを指摘する意見もあった。N科は学科の性質上、看護師としての就職を考えている学生が全体の9割を超え、そのうち大きな病院への就職希望者は7名、「専門的な技術を学びたい」、「経験を積みたい」、「先輩の力も借りながら早く一人前になりたい」と仕事への意欲と向上心が見受けられた。また「大学院に進学し助産師になりたい」と考えている者、就職先として具体的な病院名を挙げている者もあり、近未来に現実的な目標を持っている様子が窺われた。働いている自己イメージではW科女子学生と比較すると、無記入の割合が多かったが、記載している学生の傾向としては、「仕事をどんどんこなす」、「テキパキと処理をする」、「仕事ができる女性」という能力面（有能な女性イメージ）と「周囲に優しく接する人」、「温かい対応ができる人」という情緒面（人柄を表す要素）の2つに分かれた。

結婚は8割強が希望し、具体的な結婚年齢を挙げた39名の平均年齢は27.17歳であった。W科女子よりも2歳ほど年齢が高くなっているが、これは看護師として経験を積み一人前になることを目指しているため、ある程度仕事に専念する年数が必要と考えられる。また結婚についての記述の中に、「結婚しても仕事を続けたい」と回答した者が11名おり、専門職への意識の高さが窺われた。夫婦にとって大事なものを箇条書きにした学生もいたため紹介する。「夫婦にとって一番大切なものは、お金、信頼、愛、思いやり」、「夫婦にとって一番大事なものは、コミュニケーションを取ること、信頼、愛」であった。「信頼と愛」は参考例にも挙がっており、おそらくこの2つは女子大生にとって夫婦に不可欠な要素と捉えられていると推測される。出産については、希望する子どもの人数を挙げた35名のうち、最も多かったのが子どもは2人（回答18名）、さらに男女1人ずつと答えたものが8名、「一姫二太郎」と回答した者が1名であった。どういう母親になりたいかについては、「子どもとオシャレを楽しむママ」が3名、「子どもと友だちみたいな関係でいたい」が2名、「愛情をもって大事に育てたい」などが3名であった。「家族と過ごすことが楽しいから早く家に帰りたいと思えるような雰囲気を作りたい」、「小学校に入ったら家事を教える。しっかり働いて、夫婦でお金を貯めて家族旅行をたくさんし、子どもに淋しい思いをさせない」など子どもとの関わりを具体的に記述した回答も見られた。

出産後の働き方を記入した者は半数近くに上り、W科女子の2倍であった。育児休暇後、仕事に復帰する場合、夜勤のない病院かクリニックを希望する者が3名おり、子育てをしながら無理のないペースで勤務を続けたいと考えていることが分かった。介護については、「する」と回答した学生の中で、「親に恩返しをしたい」、「親には感謝しきれないほどの恩を感じているので子どもとして責任をもって対応していきたい」、「親の介護では今の学習を身につけ、一日でも長く生きていけるように援助したい」など、親孝行な回答が見受けられた。将来に向けてある程度の現実的視点が持てているのは、人の一生を視野に入れて関わる看護職ならではの特徴と推測された。老後については、「90歳くらいまで生きる。夫と趣味を共有しずっと仲良く過ごしたい」、「100歳まで生きて、夫婦仲良く一緒に日々を楽しんで、悔いのない人生を送りたい」、「子どもが自立したら、夫婦で旅行をした

い」など夫婦でどのように過ごしたいかの回答が見られた。W科女子は自分がどのように過ごしたいかを記載する者が多かったが、N科女子は夫婦単位で人生を考えている学生が多いと考えられた。

複数回答から得られた共通項をもとに、参考例に倣ってN科女子の将来設計案を作成したところ、以下のような案が提示された。

大学を卒業したら、まず就職。大きな病院に就職して、技術を学び経験を積んで早く一人前になりたい。27歳頃には結婚して、少しセーブしてもいいけれど仕事は続けたい。夫婦にとって一番大事なものは、「信頼と愛」。子どもは2人で、男女一人ずつがいい。出産後は夜勤のない病院かクリニックなどで子育ての状況に合わせて仕事を考える。

働いている私のイメージは、仕事をどんどんこなし、テキパキと物事を処理する、仕事ができる女。もちろん患者さんや周囲に対する優しく温かい対応も忘れない。色でたとえるなら、オレンジ。青、黒、緑も。においては石鹸が甘い花のにおい。

結婚して妻になった私は、仕事も続けている。夫とは家事を分担して、対等な夫婦関係を持ちたい。色でたとえればピンク。甘い花のにおいがする妻になりたい。

そして出産・子育てする私は、子どもと友達のようなおしゃれママ。子どもをととても可愛がるけど、自分もしっかり持っていたい。色ならオレンジと黄色、ピンク。においては柑橘系。お日さまのにおいや石鹸のにおいもいい。

親の介護はまだイメージがわからない。でも親には感謝しているので親孝行をしたい。長生きをして死ぬまで、夫婦仲良く、一緒に旅行や趣味の世界を楽しみたい。

(3) M科女子20名の回答は以下のように整理された。数字と比率の表記は(1)と同様である。

表4. M学科女子のアンケート結果

	項 目	概 要	無記入 回答数
1	参考例を読んでの感想	記載あり4 [20%] (肯定的4)	16 [80%]
2	大学卒業後	記載あり19 [95%] (就職19, 進学なし)	1 [5%]
3	働いている自己イメージ	記載あり13 [65%] (仕事に積極的3ほか)	7 [35%]
4	結婚について	結婚する19 [95%] (具体的な結婚年齢を記載6), 結婚しない1 [5%]	0
5	出産・子育てについて	記載あり14 [70%] (具体的な子どもの人数を記載9, 子どもは欲しくない2ほか)	6 [30%]
6	出産後の働き方について	記載あり12 [60%] (育休後に仕事復帰10ほか)	8 [40%]
7	親の介護について	記載あり7 [35%] (介護したい3, まだ考えられない2, 病院に入れる1ほか)	13 [65%]
8	老後について	記載あり14 [70%] (夫婦仲良く5ほか)	6 [30%]

参考例を読んでの感想は、「恋愛や結婚に前向きですごいなと思った」、「理想を語り過ぎな気がしたが、このような人生を送れたらよいと思う」、「とても理想的でほとんどの女



性が望みそうな回答だと思った」,「自分を持っている強い女性だろうと思った」と肯定的な捉え方をしていた。大学卒業後はほとんどが就職を希望しており,「安定した職に就きたい」,「公務員として働きたい」は合わせて5名,地元での就職を望むものは2名で,これは地域社会に意識が向けられていると考えられる。働いている自己イメージでは「テキパキと働く」,「バリバリ働く」,「どんどん仕事をこなす」などが挙がり,仕事への前向きな姿勢と意欲が感じられた。同時に「やりがいを感じられて楽しく働けるような職業に就きたい」,「仕事で大きな失敗をせず安定した日々を過ごしたい」,「将来になりたいことは決まっていないが,どこに行っても即戦力になるような女性でありたい」,「ほどほどに仕事を頑張りたい」と仕事イメージがやや漠然とした回答も見られたが,入学期を起点としてこれからの大学生活でより時間的展望を具体化していく可能性も考えられる。これは職種がはっきりしているN科女子とは違い,国家資格を目指さないW科女子にも共通した傾向と考えられた。

結婚はほぼ全員が結婚を希望し,具体的な結婚年齢を挙げた6名の平均年齢は29.16歳であった。W科女子やN科女子よりも年齢が高くなっているが,これは30歳が2名,40歳が1名それぞれ回答に含まれたためである。また結婚についての記述では,「結婚しても仕事は続けたい」が5名,「友達のような夫婦関係」,「何事も助け合う夫婦でいたい」など相手とどのような関係を持ちたいか記述した回答が5名であった。出産については,「子どもは欲しくない」が2名,その理由に仕事を重視し,配偶者との関係性に価値を置いていることが挙げられていた。出産については,希望する子どもの人数を挙げた9名のうち,子どもは2人と回答した者が8名,さらに男女1人ずつと答えたものが4名であった。W科女子やN科女子同様,子ども2人と希望した学生が多く,男女1人ずつというバランスの良さを求めていると考えられる。子どもとの関係では,「優しく強いお母さんになりたい」,「母として尊敬される存在でありたい」と理想の母親像を語り,家族との関係では「休日は家族で出かけたい」などの回答が複数見られた。出産後の働き方については半数の10名が,「育児休暇を取得したのち仕事に復帰したい」としており,内,「状況に応じてパートなども考えたい」が3名であった。一方,「育児に専念する」,「専業主婦になる」と決めている学生もいた。

親の介護については「まだ考えられない」が2名,「親の介護をする」が3名,病院に入れるという回答もあった。M科女子の全体数が少ないこともあるが,無記入と「まだ考えられない」とした回答者を除いて比率を計算したところ,親の介護について言及したW科女子は13%,N科女子は14%であり,比べてM科の女子全体の20%は多く,親の老後も自身の将来設計の中に組み込まれている様子が窺えた。老後については,「夫婦仲良く」,「離婚は絶対せず,死ぬまで幸せな家庭でいたい」など夫婦一緒に老後を送りたいという希望が語られた。

複数回答から得られた共通項をもとに,参考例に倣ってM科女子の将来設計案を作成したところ,以下のような案が提示された。

大学を卒業したら、まず就職。安定した公務員になりたいが、地元での就職も考えたい。29歳頃には結婚して、仕事は続けたい。夫婦は友だちのような親友のような関係がいい。互いに助け合い、尊重し合っていきたい。子どもは男女一人ずつがいい。育児休暇後に仕事復帰したいが、状況に合わせて仕事をどうするか考えたり、育児に専念したいので仕事を辞めることも考えている。

働いている私のイメージは、てきぱきと仕事ができる女になりたいが、まだ漠然としたイメージもある。色でたとえるなら、黒とグレー。においはミント系。

結婚して妻になった私は、仕事も続けていきたい。夫には家事もしてほしいし、対等な夫婦関係がよい。色でたとえれば黄色やピンク。においは花や山、海の自然のにおい。

そして出産・子育てする私は、尊敬される、優しく強いママ。休日は家族で出かけたり、一緒に過ごしたい。色ならオレンジと赤。においは柔軟剤か石鹸のにおい。

親の介護のことはまだ考えられないが、介護もあり得る。老後は夫婦仲良く、幸せな家庭でいたい。

- (4) 男子学生はW科16名、N科3名、M科27名、合わせて46名の回答を以下のように整理した。学生たちの記述内容を検討したところ学科間に大きな差異が認められなかったため、整理した内容は男子学生全体の結婚観や将来像を表していると考えられる。数字と比率の表記は(1)と同様である。

表5. (W・N・M) 学科男子のアンケート結果

	項 目	概 要	無記入 回答数
1	参考例を読んだ感想	記載あり4 [9%] (肯定的4)	42 [91%]
2	大学卒業後	記載あり45 [98%] (就職43,進学2)	1 [2%]
3	働いている自己イメージ	記載あり27 [59%] (「大学を卒業したらまず就職」の記載のみ6,仕事をパワフルにしっかりこなす4ほか)	19 [41%]
4	結婚について	結婚する40 [87%] (具体的な結婚年齢を記載25), 結婚しない2 [4%]	4 [9%]
5	出産・子育てについて	記載あり30 [65%] (具体的な子どもの人数を記載19,子育てを手伝う内容に言及8ほか)	16 [35%]
6	親の介護について	記載あり5 [11%] (介護する4,まだ考えられない1)	41 [89%]
7	老後について	記載あり19 [41%] (夫婦の時間をどう過ごすか4,自分がどう過ごすか4ほか)	27 [59%]

※出産後の働き方については男子学生のため記述はなかった。

項目全体を見渡したところ、記載有無の比率は女子学生の傾向と大差はなかった。参考例を読んだ感想は、「色やにおいの表現の仕方はあまり分からないが、このような人たちが妻になってくれるなら、一緒に生活して幸せだと思う」、「女性の観点はすごいと思った。においや色で表す発想は女性ならではと思った」など感覚的要素をイメージすることに新鮮な印象を覚えたようであった。大学卒業後については無記入の1名,大学院進学(公認心理師希望)の2名(W科)を除いて、ほかは全員就職であった。内、希望の職種とし

て公務員4名、看護師3名（N科）、事務職2名が挙がっていた。働いている自己イメージでは、「仕事をパワフルにしっかりこなす」を筆頭に、「仕事ができる人」、「何でもこなせる男」、「冷静に物事を考える」、「人間関係は大切に」など簡潔に述べた回答が多い中、自身の人柄や在り方について丁寧に記述した回答もあった。一方、女子学生の回答には見られなかったが、参考例に示された文章「大学を卒業したら、まず就職」をそのまま記述している回答も6名みられた。参考例に影響を受けたのか、働いているイメージがわからなかったのか、大学卒業後は就職するという一般的なルートに従う様子が見受けられた。

結婚については8割強が結婚を希望し、具体的な結婚年齢を挙げた25名の平均年齢は27.96歳であった。結婚をしないと回答した2名のうち、1名はその後のライフデザインが記入されておらず、もう1名は結婚せずにペットと暮らしていきたいとの回答であった。また結婚のタイミングとしてW科男子とM科男子は、「仕事と収入が安定してから結婚を考える」（8名）と生活をまず安定させることを重視していることが分かった。結婚生活において、女子学生の回答に見られたような「夫婦対等の関係」という記述は見られなかった代わりに、「家事をできる限り手伝う」（5名）といった妻をサポートする姿勢がみられた。また、妻が働くことを希望し給料も自分より高いのなら、自分が専業主夫になる、と従来の性役割観にとらわれない回答や「家の中では妻の立場が上」という回答も見られた。希望する子どもの人数を挙げた19名のうち、子どもは2人と回答した者が10名、さらに男女1人ずつと答えたものが3名であった。これは女子学生の結果と同じ傾向を示している。どういう父親になりたいかについては、「家族サービスをたくさんする」、「優しく時には厳しく子育てをしたい」、「子育ては妻に任せきりにしない」、「子どもが望んでいる進路を叶えてあげられる親になる。家族を大切に作る」など家庭と家族を重視している回答が複数見られた。

親の介護については9割近くが無記入で、これは女子学生たちの回答よりも比率が高く、まだ現実感を持って考えられないようであった。記載ありでは「親の介護は時期が来たら」、「親の介護は親の意見で決める」、「できることはしてあげたい」と未来展望に乏しく、その時の状況に応じて対応する様子が窺えた。老後については6割近くが無記入であった。「幸せに暮らしたい」、「余生を楽しみたい」、「ゆっくりと暮らしたい」と抽象的な表現や、「定年まで普通に暮らす」、「定年までしっかり働く」、「退職までにいろいろな人に信頼してもらえるような人になりたい」など定年退職をゴールにした将来設計も見られた。

複数回答から得られた共通項をもとに、参考例に倣って男子学生の将来設計案を作成したところ、以下のような案が提示された。

---

大学を卒業したら、まず就職。仕事と収入が安定した28歳頃に結婚して、妻になった人を守りたい。子どもは男女一人ずつがいい。子育ては妻に任せきりにせず、優しさと厳しさをもって子どもに接したい。妻と自分の収入を考えて専業主夫の道もあるかも。

働いている自分のイメージは、仕事はパワフルにしっかりこなす男。色でたとえるなら、青。黒やオレンジもあり。おいはさっぱり、爽やか、ミント系など。

結婚したら、一家の大黒柱として定年までしっかり働きたい。家事はできる限り手伝って、妻にだけ負担がかからないようにしたい。家の中では妻の立場が上でもいい。色でたとえれば赤。においてはあまりイメージがわからないが清涼感がある感じ。

そして子育てでは、子どもの意思を尊重し、望んでいる進路を叶えてあげられるようにしたい。家族を大切に、家族サービスも忘れない。色なら黒。においては柑橘系。

親の介護のことはまだ考えられない。時期が来たら親の意見を聞いてできることはしてあげたい。自分は定年まで普通にしっかり働き、ゆっくりと幸せに余生を楽しみたい。

---

#### (5) アドミッションポリシーとの関連性

各学科のアドミッションポリシー（茨城キリスト教大学入試ガイド，2021）を参考にしながらアンケート結果と関連する箇所を抜き出し、各学科学生の特徴を検討する。なおアドミッションポリシーは抜粋して別添資料とした。

まずW科で取得可能な国家資格には公認心理師と社会福祉士がある。アドミッションポリシーから抜粋すると、「人や社会が抱える課題に対して興味関心があり、ボランティア活動や地域活動の経験を有するなど、進んで他者の理解と支援を志向する実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本学科における学修によってその深化が期待できる人」や「対人支援の専門性を身につけ、福祉や心理・カウンセリングの現場において実践に携わりたい人」などが挙げられた。「他者の理解と支援」、「対人支援」といったキーワードは、人や社会とどのように関わりたいのか、具体的には職場での人間関係や家庭での配偶者や子どもとの関わりから検討することができる。記述内容を見ると、「周りの人への気遣いを忘れない」、「周りから頼られるしっかりした人」、「周りとうまい関係を築きたい」、「たくさんの人と関わって親しみやすい女性になりたい」、「社会福祉士となってたくさんの人を笑顔にしたい」、「相手のことを思いやれる女性になりたい」、「周りを見て行動できる気の利く人になりたい」、「他人とのコミュニケーションを忘れない」、「人間関係を大切にしたい」、「地域の人と交流し社会に貢献できる人」など職場の人間関係を記した多くの回答が挙がっていた。また家庭における家族関係には次のような記述がみられた。「子どもは愛情をもって大事に育てたい」、「夫とはお互いの時間を大切に尊重したい」、「相手と対等な関係がよい」、「子どもを優しく包み込める人になりたい」、「夫と良き信頼関係を築きたい」、「お互いに支え合っていけるのが理想」、「夫と良好関係を築きたい」、「基本的には子どものやりたいようにさせたいが躾もしっかりする」、「子どもを可愛がるママになりたい」。男子学生では、「仕事で疲れていても妻にあたったりせずに良い関係を築きたい」、「妻になった人を守れるような男になりたい」、「相手のことを考えながら生活する」、「子どもの意思を尊重する」など、他者を理解し尊重し、他者との関係性を大切にしたい学生が多いようであった。

次にN科で取得可能な国家資格には看護師と保健師、教員免許には養護教諭がある。アドミッションポリシーから抜粋すると、「将来、看護職として働きたいという明確な目標を持っている人」、「生命を尊び、周囲への気遣いをもちながら様々な人と関わるための努力ができる人」などが挙げられた。将来の職種が明確なため、N科学生の9割が看護職を目指した現状はアドミッションポリシーと合致している。目標志向性があると、卒業後の

働く姿もイメージしやすい。総合病院やクリニックなどで経験を積んで早く一人前になりたいという成長志向や勤労意欲の高さが感じられた。また養護教諭を希望した学生1名は、自身の体験に基づいて未来展望をしたうえで、具体的な対人支援の仕方を述べていた。「周囲への気遣い」という点では、「温かい対応ができる人」、「人に優しくいつも笑顔で明るい性格の女性」、「周りが見えて臨機応変に仕事ができる女」、「慈愛の心を忘れずに患者さんと向き合っている仕事ができる看護師」、「いろいろな人から頼りにされる優しい看護師」、「一人一人の患者さんにゆっくり時間をかけ心身のケアを行うことができる優しい人」などの回答が当てはまる。温かさや優しさ、慈愛などの精神的側面、臨機応変さや心身のケアなど行動的側面への言及がみられた。

最後のM科は中学校教諭（社会）と高等学校教諭（公民）の教員免許が取得できるが、アンケート記入時点では教員志望者はいなかった。本稿では「将来ビジネスリーダーとして、広く国際社会や地域社会に貢献したいという高い意欲と志をもつ人」をアドミッションポリシーから抜粋して検討した。アンケートの回答には「将来のビジネスリーダー」、「国際社会への貢献」という言葉は見られなかったが、地元就職を望む学生は地域社会への貢献を望む学生と考えられる。そのほか、「公務員」、「金融系」、「事務系」、「IT系」、「アパレル系」に関心を示し、M科学生たちは就職先として幅広く職域を考えており、このことは価値の多様化を受け入れる姿勢に繋がり、様々な人生選択の可能性が予想された。

アンケートにはアドミッションポリシーを意識させるような項目はなかったが、人や社会との関わりにおいて学科のポリシーに適合する回答も見受けられた。ここを起点にこれから4年間掛けてカリキュラムポリシーに沿った教育を受け、卒業期にはディプロマポリシーを満たす学生に成長していることも大学の教育目標に合致した望ましい姿と考えられる。

#### IV 総合考察

アンケート結果から得られた大学生の時間的展望、これからの学びや教育に必要な知見について述べ、今後の課題を検討する。

##### (1) アンケート結果から得られた知見

本稿では、学生たちに将来設計を問うことで、現在と未来を含めた広い視点から、学生の希望する将来とその選択における自己意識の在り方を見ることができた。大学生の時間的展望における自己認識は現在および未来志向性がある（佐藤ら，2004）と指摘されているが、現在を起点に実現可能な将来の見通しを記述している学生たちが大半であった。参考例については女性の理想像という感想も見られたが、仕事や結婚、出産など個人のライフスタイルが生き生きと描かれていた。今回、参考例を提示してからアンケートを実施したことは、「大学卒業後から自分の老後までの人生設計」を記述するように教示のみした場合よりも、学生たちには取り組みやすく、ポジティブな時間的展望が多かったことは参考例の影響と考えられる。但しこれは石橋（2006）の結果を支持する一方で、参考例にリードされ結婚感、性別役割行動等に関して自由に記述しにくかった可能性も否めない。アンケートに回答した170名の学生の傾向に限られるが、W科女子は3人に1人は結婚を



望まず、出産後の未来展望は描きにくく、老後は自分中心に過ごし方を考えていた。N科女子はほとんどが看護師を目指し、能力と人柄を兼ね備えた自己像を持ち、老後は夫婦単位で人生の過ごし方を考えていた。M科女子は他の2学科に比べ、出産後は育児に専念することを望む者もあり、親の老後も将来設計に組み込んで考えていた。また男子学生からは、卒業後は就職するという一般ルートを選択し、仕事と収入が安定してから結婚を考え、家事では妻のサポートを行い、親の介護についてはまだ考えられないという特徴が見出された。参考例に挙がっていた、夫婦にとって大事なものは「信頼感と愛」、子どもは男女一人ずつ、出産後は状況に合わせて仕事を考える、職場では「てきぱきと仕事ができる」、夫には対等な夫婦関係を望む、子どもと友達のような関係を望み、とても可愛がる、親の介護はまだ考えられないが、老後は夫婦仲良く過ごしたいなどは、学科に共通して学生たちの賛同を得られた将来設計とも言えよう。

またアンケートではライフステージごとに色やにおいの記載も求め、回答数の多いものを共通項として将来設計案に取り入れた。色については大山(1962)が「暖色」は危ない、さわがしい、はでな、嬉しい、不安定なといった興奮的な感情を伴い、「寒色」は安全な、静かな、地味な、悲しいといった平静な沈潜した感情を伴うと指摘し、色は「暖かさ」、「冷たさ」で象徴されるような感情の問題と関連することを報告した(大山, 1997)。アンケートでは赤や黄色の暖色系、青の寒色系はじめ様々な色が挙がっていた。またにおいについては若田・齋藤(2014)が心理的な印象によってにおいを分類し、柑橘系の香は、陽気な、明るい、好きな、はっきりした、派手な、鋭い、酸っぱい、すっきりした、軽い、澄んだなどの印象が持たれやすく、ミント系の香は、甘くない、冷たい、はっきり、鋭い、すっきりした、軽い、澄んだなどの印象が持たれやすいという結果が得られた。しかし鋭い、すっきりした、軽い、澄んだという印象は柑橘系にもミント系にも共通の特徴であり、一つの色に対して一義性は認めにくいようである。アンケートでは柑橘系、ミント系のほか、花のにおいや石鹸のにおいも挙がっていた。色やにおいに対する一般的な情緒的側面や心理的な印象は見出せるものの、本アンケート結果の解釈にそのまま適用することは慎重にすべきであろう。なぜならアンケート記述の際、色やにおいの選択理由を求めなかったため、そこに学生個人の経験に基づいて色やにおいに意味づけしていた可能性が考えられるからである。

「自我同一性の獲得」を目指して歩み始めた青年期であるが、エリクソン(1959)は成人期初期の発達課題を「親密性の獲得」としている。これは職場の上司や部下、夫婦や子どもなど身近な他者と親密な信頼関係を築き上げることを指す。職場に適応し、結婚によって新しい家庭を形成することになり、人としてより成長を遂げてくことが求められる。アンケート結果からは、職場でも夫婦関係でも信頼関係を重視している様子や、出産後の働き方では周りのことや状況を考えて物事を決めるなど他者を配慮した意思決定が見られた。自分の主観にとらわれず、相手の価値観や多様性を受け入れる姿勢、主体的・自発的に相手の福祉に寄与しようとする実践的ボランティアズムに通ずるとも考えられる。大学生から社会人への展望の中で、自我同一性の獲得を目指した個人的な生活空間における自己実現と、親密性の獲得を目指した社会的・対人的な生活空間における自己実現の両者に取り組んでいる様子が窺われる。



現代社会においては大学生の未来の描きにくさ（奥田，2013）が指摘されているが、本稿では結婚年齢や結婚生活、子どもの性別や人数、出生順など細かに人生設計を行っている女子学生が少なくなかった。このことから自身の将来を詳細に記載できた女子学生たちは、時間的展望における自己意識が高かったと言えよう。性差については、女性の方が人生における選択肢が多く、人生をより現実的・具体的に捉える必要性があるため、男性よりも女性が肯定的な回答をする（佐藤ら，2004）という報告がある。また職業生活を中心に生きていく男性と比べて、女性は結婚、出産・子育て、介護といった家庭生活上の出来事のたびに働くことをめぐって厳しい選択を迫られる（石橋，2006）という指摘や、男性は仕事を主軸として未来展望を広げ、個人内領域を中心としたアイデンティティを進める一方、女性は家庭を主軸として現在展望を豊かに、対人関係領域を中心にアイデンティティ形成を進めていく（石井，2017）という結論も導き出されている。たしかに女性は結婚や出産の有無、育児と仕事の両立などを巡ってライフステージごとに状況を認識し直す必要が出てくる。本稿の女子学生たちは人生の節目ごとに未来を展望することができ、その結果、具体的な記述が多くなった可能性が考えられた。

それぞれのライフステージにおいて詳細な将来設計を記述していた学生がいた一方、全体的に記述内容が乏しく、親世代の介護や自身の老後について無記入の学生たちも一定数認められた。このような漠然とした将来設計にとどまっていたり、「とりあえず就職」といった態度の学生たちについては、これから大学でどのような意識変革を促す必要があるかも検討が必要である。筆者としては学年進行に合わせて、より実現可能な具体的・現実的な未来展望を描けるように留意しつつ学生たちと関わりたいと考えている。たとえば学生たち自身に進学の節目などで今一度、各学科のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを見直し、時間的展望を意識したうえでその都度、自分には今何が得られており、今後何を身につけるべきか検討する機会を与えることも大切であろう。また山本ら（2012）の報告では、未来展望としての希望の獲得を促進させるためには、1年生の時期は進路選択という課題を達成できそうかといった具体的な自信ではなく、将来何があってもうまく乗り切れるといった一般的な自信を持たせることが一つの指標となり得ると結論づけている。学業・人間関係・心身の健康などを含めた大学生生活全般において学生たちが主体的に物事に取り組み、自身が納得できる成果が上げられるような経験を積むことも学生教育に欠かせない視点である。授業ではアクティブラーニングやグループワークを通して、学生の主体性を育て、自己肯定感や自己効力感を高めること、自己内省を深め、自分の意見を自分の言葉で語る機会を提供したいと思う。特にW科の学生については全員が心理専門職になるわけではないが、筆者としては心理学や発達心理学の学びを通して、自他の心を理解すること（自己理解・他者理解・人間理解の促進）が各自のライフサイクルに役立つことを伝えていきたい。そのためには1年生の基礎的な学習の上に2年次以降の専門的な学習をどのように積み上げればよいのか、現在の学習が将来の職場や家庭でどのように活用できるかについて、その都度丁寧に説明し、学生の発達支援（心理教育やキャリア教育、進路選択の支援も含め）を続けていきたい。

## (2) 今後の課題

本稿では学生の自由記述で得られた個別性から共通性を見出し、将来設計案を作成した。作成案からは学科ごとの特徴や性差がある程度見られたものの、全学科を網羅するような特徴は見出せていない。将来的には本学学生の時間的展望についての探索的研究ができたらよいと思う。

過去の体験への捉え直しが未来展望へ影響を与える（日潟・齋藤，2007），過去を現在や未来に繋がるものとして総合的に位置づけることができた場合，将来への希望と将来目標を持つことができる（石川，2014）と指摘されているため，今後は学生の過去・現在・未来といった時間軸上の各ライフステージに沿った人生設計を問う必要もあろう。

将来設計については時間的展望のみならず，精神的健康度，自己効力感，自我同一性の達成度，パーソナリティ特性などの要因も影響すると考えられる。今後はより詳しく学生の特徴分析を行うために心理指標を用いて将来設計との関連性を検討することも学生理解に有用である。

将来設計のアンケート実施時期に関しては，就職活動を意識し始めた大学3年生や社会人への準備を始めた大学4年生への調査も含めると，大学4年間の青年期の時間的展望の変遷をより明確に把握出来ると考えられる。

## 引用文献

- Erikson, E. H. 1959 Identity and the life cycle. New York: International Universities Press. 小此木 啓吾訳 1973 自我同一性 アイデンティティとライフサイクル 誠信書房
- 日潟淳子・齋藤誠一 2007 青年期における時間的展望と出来事想起および精神的健康との関連 発達心理学研究 第18巻第2号 109-119.
- 茨城キリスト教大学入試ガイド 2021 1-3.
- 五十嵐敦 2020 大学生の生活行動と社会観や時間的展望との関係：キャリア形成としての大学生活の充実について検討する 福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要 第2巻 29-36.
- 石橋尚子 2006 3章 こころとからだの発達 37-56 山崎晃・浜崎隆司編著 新・はじめて学ぶこころの世界 北大路書房
- 石井僚 2017 青年期における時間的展望とアイデンティティ形成 名古屋大学大学院博士論文
- 石川茜恵 2014 青年期における過去のとらえ方タイプから見た目標意識の特徴：時間的展望における過去・現在・未来の関連 発達心理学研究 第25巻第2号 142-150.
- 岩田忠之・齋藤美穂 2014 香の分類における心理学的検討—SD法を用いた印象による香の分類—日本感性工学会論文誌 第13巻第5号 591-601.
- 文部科学省 2009 子どもの徳育に関する懇談会より 3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題：文部科学省 (mext.go.jp) アクセス日時2021年8月18日
- 奥田雄一郎 2013 大学生の時間的展望の時代的変遷—若者は未来を描けなくなったのか？— 共愛学園前橋国際大学論集 13号 1-12.
- 小野寺敦子 2009 手にとるように発達心理学が分かる本 かんき出版
- 大石郁美・岡本祐子 2009 青年期における時間的展望とレジリエンスとの関連 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要 第8巻 43-53.
- 大山正 1962 色彩の心理的效果 照明学会雑誌 第46巻第9号 452-458.
- 大山正 1997 色彩の知覚とその心理的效果 可視化情報学会誌 第17巻第64号 2-6.
- 佐瀬竜一 2021 時間的展望の視点を取り入れたキャリア教育開発の試み 常葉大学教育学部紀要 第41号 201-211.
- 佐藤文子・志村結美・深谷純子 2004 時間的展望における自己認識と生活実践 千葉大学教育学部

- 研究紀要 第52巻 103—108.
- 関大也・河村茂雄 2019 大学生の所属サークル・部活動に対する認知がアイデンティティの実感としての充実感に与える影響：—時間的展望に着目して— 日本教育心理学会総会発表論文集 61号 609.
- 高橋一公 2014 発達心理学15講 北大路書房
- 都築学 1982 時間的展望に関する文献的研究 教育心理学研究 第30巻 73—86.
- 都築学 1993 大学生における自我同一性と時間的展望 教育心理学研究 第41巻第1号 40—48.
- 山本登・岩元澄子・原口雅浩 2012 青年期における未来展望と進路選択に対する自己効力感および一般性自己効力感との関連 久留米大学心理学研究 第11号 102—107.
- 山岡大聖・谷原弘之・志和資朗 2020 大学生の自己効力感と時間的展望が職業未決定に及ぼす影響 岡山心理学会第68回大会発表論文集 5—6.

## (別添資料) アドミッションポリシー (茨城キリスト教大学入試ガイドより)

## 生活科学部

## 心理福祉学科

心理福祉学科は、別に定める教育課程方針に基づく学修を果たし、学位授与方針に掲げる諸能力をもった人を育成するために、本学科への入学者として次の事項を満たす方を選考し、受け入れます。

## &lt;建学理念&gt;

## 【全ての入試】

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

## 【総合型選抜、学校推薦型選抜など】

大学入学までに、人や社会が抱える課題に対して興味関心があり、ボランティア活動や地域活動の経験を有するなど、進んで他者の理解と支援を志向する実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本学科における学修によってその深化が期待できる人。

## &lt;学力の3要素&gt;

## 【全ての入試】

・本学科で学修するために、事前に必要となる知識・技能を、中等教育終了までの学びにおいて身につけている人。

・本学科で学修するために、事前に必要となる思考力・判断力・表現力を、入学までの学びや活動によって身につけている人。

## 【総合型選抜、学校推薦型選抜など】

心理・福祉全般の社会的諸課題解決のための学修に主体的に取り組む態度、またその態度が確認できる学習歴や活動歴等が確認できる人。特に次に掲げる項目において主体的な態度が確認できる人を求めます。

1. 人に心の面からアプローチする「心理」と環境の面からアプローチする「福祉」に興味関心があり、主体的な学習意欲を持つ人。
2. 心理や福祉の学びにおいて、他者と協同して学びを深める活動に取り組むことができる人。
3. 対人支援の専門性を身につけ、福祉や心理・カウンセリングの現場において実践に携わりたい人。
4. 高等学校において、「言語を用いて思考し、その思考した内容を伝達する表現能力」「客観的に理解するための数理的な能力」を高めようと努力する人。
5. 高等学校において、事前課題に取り組むことや自らの興味・関心から発展的な学習を進めることなど、主体的な学びの習慣を高めようと努力する人。
6. ロールプレイやフィールドワークなど他者と協同した学びの機会に積極的に参加する意欲とコミュニケーション力を高めようと努力する人。

## 看護学部

## 看護学科

看護学科は、別に定める教育課程方針に基づく学修を果たし、学位授与方針に掲げる諸能力をもった人を育成するために、本学科への入学者として次の事項を満たす方を選考し、受け入れます。

## &lt;建学理念&gt;

1. 看護学の重要概念である「人間」「環境」「健康」を理解する基盤として、国語、英語、理科をはじめすべての教科に幅広く関心を持ち基礎的な学習ができる人。
2. 主体的に学習する態度を身につけておくことができる人。
3. 部活動やボランティア活動などを継続して様々な人と関わることができる人。
4. 看護の仕事について知るために看護体験に参加することができ、看護師になる意欲を持った人。

## 【全ての入試】

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

## &lt;学力の3要素&gt;

1. 本学への入学を強く志し、将来、看護職として働きたいという明確な目標をもっている人。
2. 生命を尊び、周囲への気遣いをもちながら様々な人と関わるための努力ができる人。
3. 積極的に学んでいこうとする意欲をもち、生涯にわたって自己研鑽に動んでいける人。

## 【全ての入試】

・本学科で学修するために、事前に必要となる知識・技能を、中等教育終了までの学びにおいて身につけている人。

・本学科で学修するために、事前に必要となる思考力・判断力・表現力を、入学までの学びや活動によって身につけている人。

## 経営学部

## 経営学科

経営学科は、別に定める教育課程方針に基づく学修を果たし、学位授与方針に掲げる諸能力をもった人を育成するために、本学科への入学者として次の事項を満たす方を選考し、受け入れます。

## 【全ての入試】

## &lt;建学理念&gt;

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

1. 大学入学までに、教育や社会貢献に関係するボランティア活動や、学級活動・部活動における指導的な経験を有するなど、進んで他者に奉仕しようとした実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本学科における学修によってその深化が期待できる人。
2. 本学の教育理念を理解し、豊かな教養と人間性を育み、経営学の各々の専門分野での知識の修得や技能を学び、対人能力や問題解決能力を磨く本学部の人材育成方針に理解と関心をもつ人。
3. 経営学の学びにおいて必要となる高等学校修了時までに求められる理解力、思考力、コミュニケーション能力などの基礎能力および現代社会に対する一般常識を身につけている人。

## &lt;学力の3要素&gt;

・本学科で学修するために、事前に必要となる知識・技能を、中等教育終了までの学びにおいて身につけている人。

・本学科で学修するために、事前に必要となる思考力・判断力・表現力を、入学までの学びや活動によって身につけている人。

1. 専門分野の4つの領域である戦略・マネジメント、会計・ファイナンス、マーケティング、ビジネスエコノミクス分野を学ぶことに意欲をもち、企業の経営活動に強い関心をもつ人。

## Time Perspective of Entering Students: Results of a Questionnaire on Future Plans of College Students

Mari Aoki

Establishing a time perspective is one of the developmental tasks of adolescents. Establishing a future outlook based on an understanding of one's own characteristics and aptitudes leads to more appropriate self-formation (acquisition of ego-identity). In this paper, the author conducted a questionnaire on future planning among 170 entering university students (124 females and 46 males) in order to help them in their self-formation. The content of the questionnaire was also examined in relation to the admission policy of the university.

As a result, the students were able to envision the near future, such as finding a job after graduating from university or getting married in their late 20s, but they did not have a clear vision of the future in terms of working after having children or caring for their parents. In addition, there was a partial relationship between the keywords in the admission policy of the department and the students' consciousness at the time of admission.

In the future, it will be helpful for the students to review their future plans in light of the educational policy of the department at each milestone of their student life for better self-formation. In this study, the author only examined the tendency of the students from the results of the questionnaire, but in order to analyze the results in more detail, it would be useful to examine the relationship with future plans using psychological indicators to understand the students.